

脱炭素先行地域

資料2

脱炭素先行地域の進捗状況について

環境局 先行地域推進室

仙台市の脱炭素先行地域計画の概要【全体像】

タイトル

109万市民の“日常”を脱炭素化

～「働く人」「暮らす人」「訪れる人」が
豊かな時間を過ごせる“新たな杜の都”～

取組の
方向性

- 2050年ゼロカーボン社会に向けて、**109万都市・仙台の日常を脱炭素化**
- 2030年以降を見据え、市民の意識醸成と**地元事業者の技術力・競争力向上**を図る

“日常”の脱炭素化に向けて

- ① **脱炭素リノベーション**で、快適な都市空間を創出
- ② 脱炭素モビリティで、市内の回遊性を向上
- ③ **地元事業者の技術力・競争力をアップ**
- ④ 脱炭素・資源循環の**人づくり**
- ⑤ **東北大学の知見**を活用した取組の高度化

本市を象徴する
3エリアで
取組を展開



定禅寺通エリア（働く・集う）

- 省エネ改修・ZEB改修など「**業務ビルの脱炭素リノベーション**」を実施
また、ビルオーナー・地元事業者向け**ZEB改修見学会**を開催
- ゼロカーボンイベントなど脱炭素の「見える化」を促進
- 「**都市バイオマス資源**」を活用し、サステナブルなまちづくりを推進

泉パークタウンエリア（暮らす）

- 太陽光発電等の導入や断熱改修など「**住宅の脱炭素リノベーション**」
- 高度な**エネルギーマネジメント（DR/VPP）**を既築住区で展開
- 地元工務店と連携しリノベーション体験会や断熱スクールを開催

東部沿岸エリア（学ぶ・楽しむ）

- EVカーシェアなど、**脱炭素モビリティの導入**
- 太陽光パネルのリユース等、**防災・環境技術の実証フィールド**に活用
- 観光施設等に再エネを最大限導入

全エリア共通

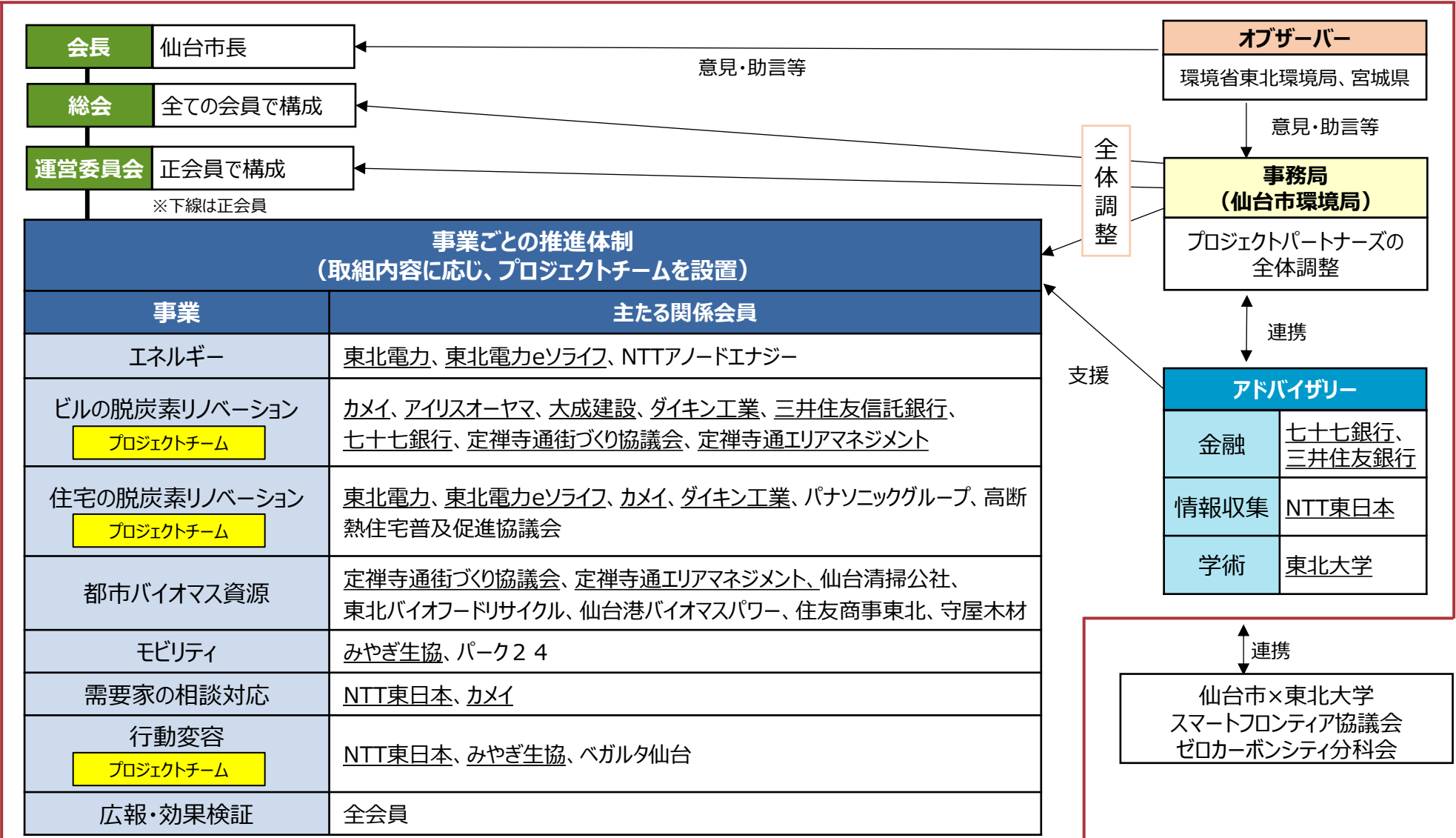
- 地産地消型の再エネ電力メニューを新たに創設
- 省エネ推進など、**市民の行動変容を促進**
- 市営バス、ごみ収集車、配送トラックなど**運輸部門の脱炭素化**



仙台市の脱炭素先行地域計画の概要【推進体制】

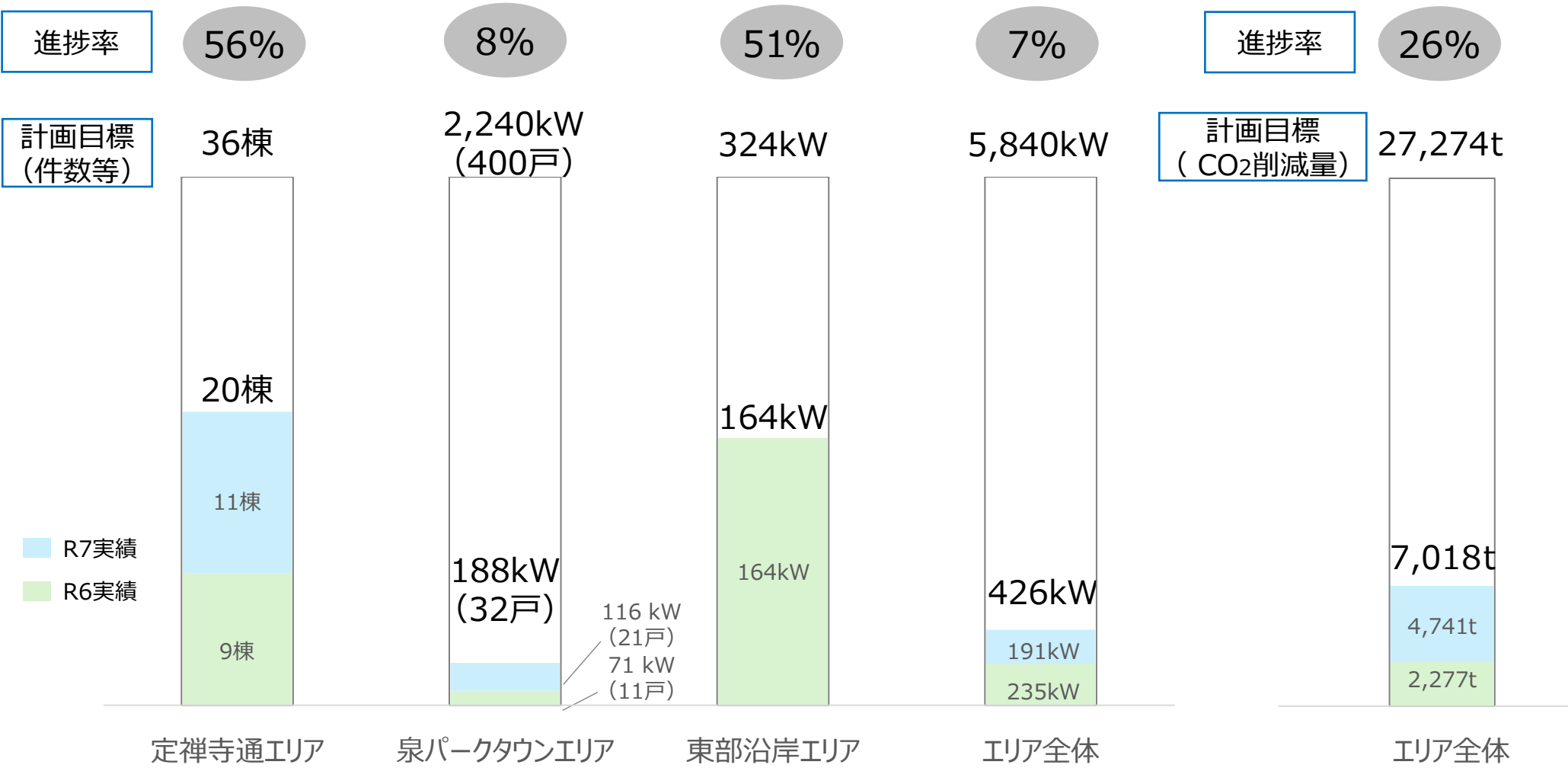
脱炭素先行地域の取組を着実に推進するため、本市、民間企業や地域団体、大学など、**計25の会員**で構成される「**仙台市脱炭素先行地域プロジェクトパートナーズ**」を中心に推進中。

【体制図】



計画目標に対する達成状況

エリアごとの件数等、CO₂削減量の進捗状況（令和6・7年度実績）は以下のとおり



これまでの取組状況【定禅寺通エリア、泉パークタウンエリア】

取組	経過
定禅寺通エリア   	【計画】R6～R10で計36棟 ・ R6・7で計20棟の省エネ改修（うちZEB改修は3棟）を実施 ・ 定禅寺通エリアおよびその周辺でZEB化に取り組むビルを「定禅寺ZEBスポット」と位置付け（7棟） ・ カメイビルにおいて、省エネ・ZEB改修見学会を開催 <u>定禅寺ストリートサーキュラー（JSC）プロジェクト</u> ・ 「JSCガンザ”けやシャカ”」「JOZENJI STREET BEER」が完成
泉パークタウンエリア 	【計画】R6～R10で計400戸 ・ R6・7で34戸に太陽光・蓄電池を導入 ・ 太陽光プラン補助率を1/2→3/5に変更（R7.8～） ・ 事業者との連携を強化（見積特典キャンペーンの実施、金融機関と連携した金融×脱炭素セミナー等を開催） ・ ソーラーカーポート補助、補助金の「代理受領制度」を開始（R8.5～）

これまでの取組状況【東部沿岸エリア等】

取組	経過
東部沿岸エリア 	• 【計画】 R6～R10で計4件 • R6・7で3件の観光施設に太陽光発電を導入 • 南蒲生浄化センターにてオンサイトPPAを計画（R9.4～稼働予定、2MW） • 延寿埋立処分場にてオフサイトPPAを計画（R9.4～稼働予定、1MW）
防災・環境技術の実証  「Sendai Bright-Nights-STORY」の様子	• テクノロジーで気候変動課題の解決に取り組む「GREEN-TECH」において実証事業を実施 ①「Sendai Bright-Nights-STORY」における空気電池の活用 ②航空写真を用いた太陽光発電施設の状況把握と災害発生リスクの抽出 • 東北大学、民間事業者と連携し、太陽光パネルリユース実証を開始
その他 	• 市民の行動変容を促進するため、「杜の都脱炭素デイリーアクション」を2回開催 ⇒ 延べ1,600人の参加 • R7.9 成果発信HP「杜の都 ゼロカーボンサイト」を開設  成果発信HP

最近のトピック①（省エネ・ZEB改修の普及促進）

先進的な取組を行ったビルのZEB改修事例を広く発信することで、**ZEBに関する理解浸透と市域内における普及促進**につなげる

（1）定禅寺ZEBスポット

市役所本庁舎建替や民間ビルで行われるZEB改修の動きを多くの方に知っていただくための「見える化」として、定禅寺通エリアとその近隣エリアでZEBに取り組むビルを「定禅寺ZEBスポット」と位置づけている

※ ZEB改修工事の概要やビルオーナー、テナント利用者の声をホームページ等で紹介するとともに、工事を完了した建物のオーナーを対象に**市独自の認定証を贈呈**する予定。

（2）使いながら省エネ・ZEB改修セミナー

定禅寺通エリアにおける業務ビルの脱炭素リノベーションの一環として、**省エネ・ZEB改修に関する理解浸透と普及促進**及び**地元事業者の意識啓発と技術力向上**を図る

日時：令和8年9月25日（金）午後

場所：定禅寺ヒルズ5階IDOB（仙台市青葉区国分町3丁目3-1）

対象：ビルオーナー、建築・設計事務所、建築業者、ビル管理会社等



▲令和7年度セミナー



最近のトピック②（使用済み太陽光パネルのリユース実証事業）

脱炭素先行地域

背景

- 2030年以降からパネルの更新や事業終了等による**太陽光パネルの排出量が増加**すると想定されている
- リユースの推進により、太陽光パネルの長寿命化を実現し、将来的な大量廃棄に備える必要がある

目的

- 環境面、経済性の評価を実施し、**リユースパネルの活用推進**によりリユース需要を創出
- 使用済みパネルの**リユースに関するビジネスモデルを構築**

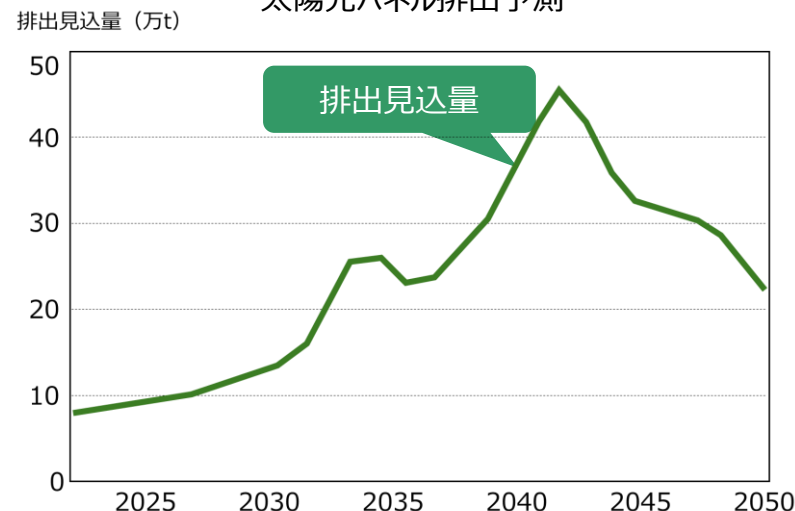
実証場所・設備

- JRフルーツパークの2期工事の**仮設現場事務所敷地内で実証**を開始
- 敷地内には使用済みパネル6枚（2.5kW）及び蓄電池（16kWh）・パワーコンディショナを組み合わせた自家消費型システムを構築

実証期間

令和8年8月5日～令和9年6月末（予定）

太陽光パネル排出予測



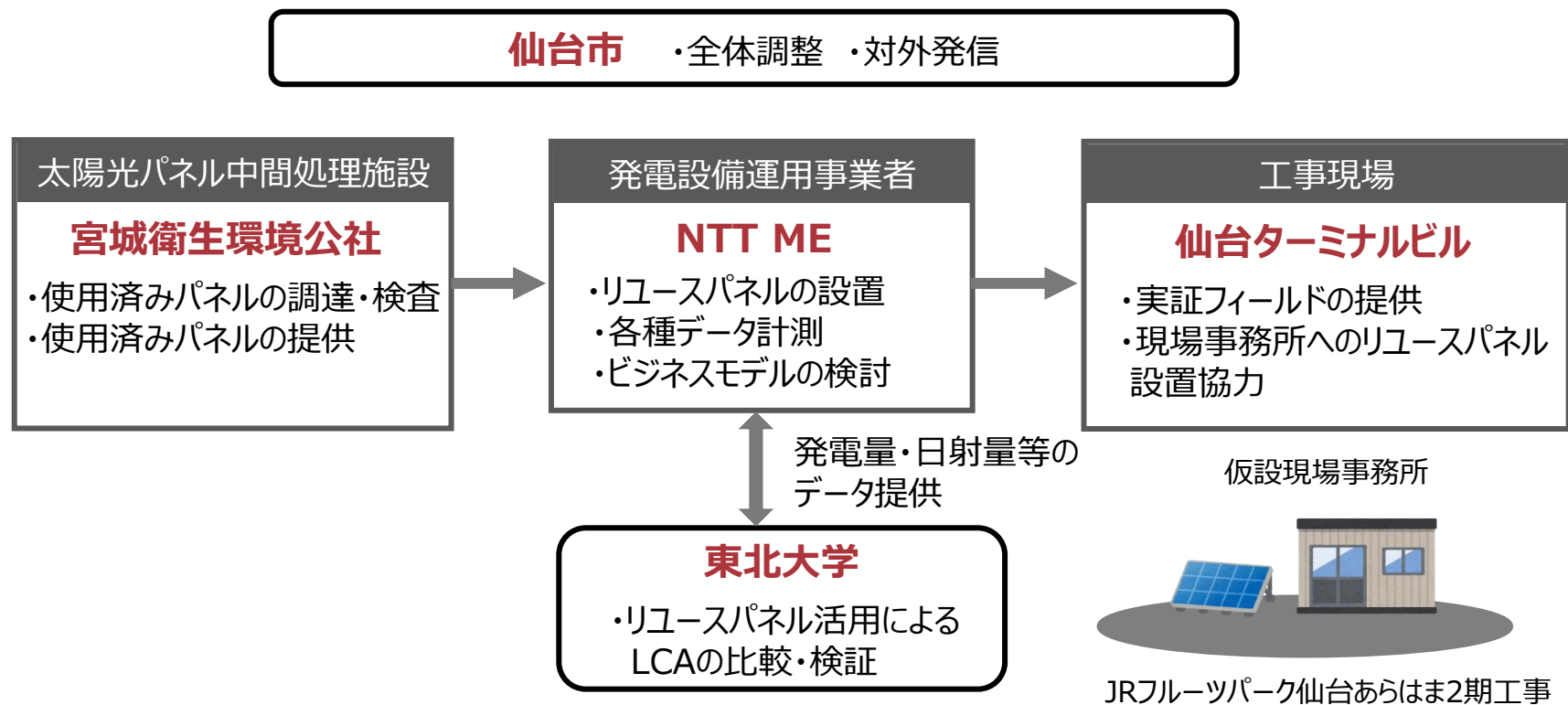
▲太陽光パネルの設置状況



▲施設全体図

最近のトピック②（使用済み太陽光パネルのリユース実証事業）

スキーム



実証内容

- 中間処理施設における使用済み太陽光パネルの**リユース検査方法の確立**
- 仮設現場事務所への太陽光パネル設置に伴う**技術的課題の整理**
- 使用済み太陽光パネルのリユースを対象とした**ライフサイクルアセスメント（LCA）の実施**
- 持続可能な使用済み太陽光パネルの**ビジネスモデルの検証**



最近のトピック③ (情報発信)

脱炭素先行地域

SENDAI 109万市民の“日常”を脱炭素化 ZERO CARBON ACTION

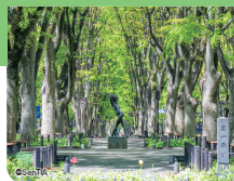


「働く人」「暮らす人」「訪れる人」が
豊かな時間を過ごせる
「新たな杜の都」



定禅寺通エリア

杜の都を象徴する定禅寺通エリアでは、市役所本庁舎の建替えや道路・公園の再整備により、大きく生まれ変わろうとしています。「使いながら省エネ・ZEB改修」による脱炭素リノベーション、官民連携による資源循環の取り組みやイベントのゼロカーボン化を通じて、脱炭素と賑わいの好循環を生み出す持続可能で魅力あるまちづくりを進めています。



既存ビルの営業を止めない「使いながら省エネ・ZEB改修」



使いながら改修工事の様子

カーボンニュートラルの実現には、既存ビルの脱炭素化が不可欠ですが、中小規模のテナントビルでは、テナントとの調整や改修中の賃料収入の減少などがハードルになっています。「使いながら省エネ・ZEB改修」により、営業への影響を最小限に抑えながら、既存ビルの脱炭素化と、ビルの資産価値向上を実現しています。

営業したまま、省エネ&快適オフィスへ!

設備の更新時期を迎えていたことに加え、仙台市の脱炭素先行地域としての取り組みも後押しとなり、ビルの総合的な改修を実施しました。「使いながら省エネ・ZEB改修」により、業務を止めずに照明や空調設備などを更新し、電気使用量の削減を達成。また、高効率空調の自動制御によって温度ムラが解消され、省エネと快適な執務環境の両立が実現しました。



カメイ株式会社
遠藤執行役員

人々が交流し、定禅寺通を盛り上げる起点に

省エネ改修によって新たな魅力を備えたビルに、「まちの景色を守っていい」という私の理念と、まちを盛り上げたいというビルオーナーの思いが重なり、出店を決めました。おむすびを通じて地域の魅力発信や、時間等によって異なる業態の展開により、多様な人々が交流し、新たな価値が生まれる場を目指しています。「まちづくりのためのお店」として、定禅寺通の賑わい創出と魅力向上に取り組んでいます。



おむすび事業
赤羽根店主

地域団体と連携した持続可能で環境に配慮したまちづくり

長年の課題である事業ごみの路上排出に伴う都市景観の改善に向けて、地域のまちづくり団体と市が連携し、ビルオーナーやテナント店舗の協力を得ながら、路上排出の抑止とビル敷地内の集積所整備を進めています。



回収した歩道空間

定禅寺通から始まる新しい脱炭素のかたち

脱炭素先行地域の取り組みは、CO₂排出量の削減だけでなく、地域課題の解決やエリア価値の向上にもつながる重要な取り組みです。協議会では、行政と地域、事業者をつなぐ橋渡し役として、脱炭素化や景観美化を推進し、脱炭素と賑わいの好循環による持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



定禅寺通
町づくり協議会
佐藤会長

都市バイオマス資源×地域循環

■ 定禅寺通等食品リサイクル推進モデル事業

飲食店から排出される生ごみを分別回収し、バイオガス発電の原料として活用しています。生ごみをフタ付きの容器に排出するので、カラスによるごみの散乱防止にもつながっています。令和7年度は116店舗が参加し、204トンの生ごみをリサイクルしました。

■ 定禅寺通サーキュラープロジェクト (JSCプロジェクト)

(一社) 定禅寺通エリアマネジメントと民間企業、市が連携し、エコロジーでサステナブルな地域づくりとエリアの魅力向上を目指しています。ケヤキの駒定枝と家庭から収集したプラスチック資源を原料としたオリジナルタンブラーや楽器の制作、地元ブルワリーと連携したケヤキビールの開発など、資源循環の「見える化」に取り組んでいます。



詳しくはこちら



モデル事業の告知ポスター



JSCタンブラー JSCガンザ JOZENJI STREET BEER

イベントで発生するCO₂排出量実質ゼロへ



イベントの脱炭素化を推進するため、「ゼロカーボンイベント運営事業費補助」を創設。「仙台・青葉まつり」や「仙台みちのくYOSAKOIまつり」など本市を代表するイベントでも活用され、プラスチック容器や生ごみなどの資源化、発電機燃料のカーボンオフセットなど、イベントのゼロカーボン化に向けた取り組みを支援しています。

表紙イメージ

定禅寺通エリアにおける取組紹介箇所のイメージ

概要

- 脱炭素先行地域の取組概要や、各エリアの主な成果等をまとめたパンフレットを作成する
- 全8ページ
- 脱炭素の取り組みの関心の高い事業者等に、本市取組を紹介するなど啓発目的として活用